

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	鳥取大学	整理番号	1-2-106
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	アウェアネスを持った学生づくり教育		
申請単位	大学全体		
申請担当者	重政 好弘		
(取組の概要)			
<p>近年の学生は、漠然とした学習目的はあるが、具体的な目標が掴めないために、不本意な大学生活を送る場合が多く見受けられる。鳥取大学では、いかにして学習への動機づけを行うかが教育上の重要課題となっている。一方、教育研究理念に“知と実践の融合”を掲げ、実践教育を重視した教育を行っており、本取組は企業フィールドや国際フィールド等の現場で学生自らが主体的に長期間、実体験することにより、また、履修科目の自由裁量の大幅な拡大を行うことにより、学習への動機づけを図り、学生の目的意識を明確にして学習への自覚（アウェアネス）を促し、学習意欲を大きく向上させることを目的とした取組である。なお、協力企業は、本取組のプロジェクト成果や学生の積極的な主体性を高く評価している。また、学生の積極性はボランティア活動への主体的な参加にも認められ、アンケートによる学生の本取組に対する満足度は高いものである。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は学習への動機付けを図り、目的意識を明確にし、学習への自覚のもとに主体的・積極的に学生の実践力を身に付けさせることを目的とするプログラムで「実践ものづくりプログラム」と「実践農学プログラム」の二つからなります。前者は企業フィールド学習と3年間の長期実施を特色とし、後者は国際フィールド学習と履修科目の自由裁量の大幅な拡大を特色とする目的意識をもった学生、さらには社会的使命に応える実践的人材の育成の手段として評価できます。また授業評価、GPA、JABEEによる評価等最先端の仕組みを積極的に導入しています。以上から、農学部取組は十分に評価できます。しかし工学部取組は未だ参加学生が少ないようです。このような問題点を解決する必要はありますが、この取組は大学の理念・教育のミッションに沿ったきわめて興味深くかつ優れた取組であり、他の大学の参考になる事例であると思われます。</p>			